

1 地名「福田」の由来

福田という名前の村は県内にもいくつもありましたが、現在の福山市芦田町の「福田」の名称は「福田村」から始まります。

まず、第56代清和天皇の859（貞観元）年に、現在の福山市新市町出身で中央において有名であり、天皇の信任が厚かった高僧行教和尚、益信僧正の兄弟が母の出生地である芦田町福田2040番地周辺（現在 市原・新家・別所の共同霊園のある所）に「能面山のうめんざん霊光寺れいこうじ」を開基しました。以来、この地を「フクデン」と呼ぶようになりました。

「フクデン」とは、父母の恩に報いるための寺がある処という意味だといわれていました。

この「フクデン」が「福田」と書かれ、「フクダ」と読まれ、いつしか固定して「福田庄・福田村」というようになりました。

その後、幾多の変遷へんせんを経過して、源頼朝より1182（寿永元9）年藤原遠江守光雅が芦田川川南六郷（土生・栗柄・柞磨・有地・福田・永谷）の地頭職じとうしきに任命されています。この頃には既に福田村という呼称は定着していました。長い年月の間には支配権力者も変わり、地名も時代によって変更されたようですが、福田村の根幹は変わることなく、現在に及んでいます。

3 福田の城址

『奥の細道』を書いた松尾芭蕉は、奥州平泉で『夏草や兵どもが夢の跡』という句を残しています。福田の城も兵どもが功名を夢見て奮戦し、あるいは栄華の夢にふけた跡だと思えますが、そのような功名や栄華もむなしく、今は雑木が茂ってその場所すら特定できず、また現地に行くことが出来ない所もあります。

福田には5箇所つわものの城があったといわれていますが、ここでは代表的なものを4箇所掲載します。

(1) 利鎌山城址とがまやま (市原城・別素城べっそ)

この城は、福田の亀山八幡神社の南方に位置する芦田町福田字名光495番地、506番地の1及び字大旗400番地の1にまたがる山頂にあり、地元の人はこちらを「城山」と呼んでいます。



源頼朝に仕えた東国武士の藤原(後に福田と改姓)遠江守光雅が平家討伐の軍功により芦田川南六郷(P5を参照)の地頭職に任ぜられました。

地頭職は警察権や年貢を取り立てる徴収権、自らがその土地の実質的支配権を握るなどの権限をもっていました。

「泣く子と地頭には勝てない」のことわざどおり、この時代の農民たちは武力を背景に圧制を加えた地頭には随分苦しめられたのでしょう。1196(建久7)年遠江守光雅は利鎌山城を築いて入城しました。

当時の山城は、近世の城のように規模が大きくて壮麗なものではなかったのです。石垣は低く、自然石のままを積んだ野面積みで、建物は門、本丸、二の丸、井戸曲輪、倉庫、厩、馬立と望楼ぐらいで、周囲には土塁や石塁が防御施設としてありました。

六代城主 福田遠江守光季のときに、足利尊氏の軍団が九州から海と陸より京都へ向って東上の途中、陸路を東進中の足利尊氏の弟足利直義の軍勢に1336(延元元年)5月10日利鎌山城を攻撃されて、城主光季は防戦むなしく敗れて自害し、一族郎党は四散してしまい、140年続いた福田氏は滅亡して利鎌山城は空城となりました。

それから20年後の1356(正平11)年に、かつて足利尊氏について九州へ従軍し、戦功のあった岡田遠江守盛次が足利尊氏から福田庄を領地として拝領し、空城になっていた利鎌山城に入城を許されています。

初代城主 岡田盛次から200余年たった八代城主岡田遠江守盛雅のとき、1557(弘治3)年3月4日の深夜に、有地美作守隆信と元盛の父子を中心とした有地一族の軍勢に城を襲撃され、城内に火をかけられて激しい攻防戦のすえに盛雅は討死しました。また、盛雅の正室で、女性ながら武芸に優れ、特に薙刀の達人

と言われた「蓮の前」が、敵将有地元盛と交戦中に背後から元盛の家臣に切りつけられて憤死し、遠江守盛雅一族は滅んだのです。

この城跡は、現在福山市に残っている中世の山城では最大級のもので、土塁跡等が少し残っております。



落城から100年経って書かれた利鎌山城の見取り図

(2) 掛平山城址 (岩見の端城)

この城は、芦田町福田字才町84番地の5及び86番地の1の山頂(通称馬場山)にありました。山上には井戸の跡と伝えられるところもあります。

駅家町向永谷の馬屋原呂平(1762~1836)が著した「西備名区」(全90巻 広島県重要文化財)によれば、「城主光成左京進隆正は天文年中(1532~1555)大内家に従っており、先祖は土肥氏で、元弘の頃(1331)上山守姫居山近江城主であった新三郎某と言う者が、桜山慈俊の命に従い、楠正成のもとに使者となって行き、つぶさに赤坂城の落城を見て帰ったと言われている。その後、左京進隆正、新三郎興家父子が福田氏(利鎌山城主)没落の後、この城に移り、有地氏の与力となった。」と記されています。



(3) 宇佐山城址

この城は、芦田町福田2717番地の4地先(ポプラ福山芦田店の裏で、山土が取り除かれて現在は畑)にありました。

「備後古城記」には、利鎌山城の城主福田氏の客居の土 光成安芸守の居城であったと記録されていますが、年代は不詳です。

「西備名区」(P12を参照)には、光成氏が山中に「宇佐八幡」を勧請し、宇佐をもって地名としたと記されています。

また、「備後古城記」によると、本城利鎌山城が有地一族の連合軍に攻められ落城した後は、有地石見守清元の三男有地玄番頭晴元が分家して1563(永禄6)年より入城していましたが、1587(天正15)年3月、豊臣秀吉によって城地を召し上げられて廃城になったと記録されています。

(4) 須久母山城址 (宿茂城)

この城は、芦田町福田16番地の4及び同16番地の5地先の小山(東才町の東端)にありました。須久母山ともスクモ塚(地元ではスクモという漢字は、米偏に皮と書きます)とも云われ、高さは約15メートル、頂上の面積は5アール位の山です。

「備後古城記」によれば、1089(寛治3)年 初代城主 齊藤左衛門実遠が居城し、2代城主 齊藤左衛門基行、3代城主 齊藤三郎実盛と続きましたが、それ以後の消息は不明です。

現在、山上にはスクモ塚良神社・荒神社が祀られています。

4 福田の神社・仏閣

(1) 亀山八幡神社

芦田町福田2039番地に鎮座^{ちんざ}するこの神社は、福田八幡宮とも亀山八幡社とも呼ばれ、福田村の産土神^{うぶすながみ}で、祭神は仁徳天皇の父親 應神天皇(譽田別命)や神功皇后等です。

この神社の由緒は、「芦品郡志」に「創立年月日不詳、もっとも古老の口碑によれば、もとは門神^{かどがみ}ヶ塚に鎮座していたが、その後文永年中(1264~1274)同所の樟の大樹の下に勧請する。これにより土地の人々は「樟八幡」と称していました。

明應年中(1492~1500)樟が枯死したので、この地が神意に添わないのだとして、利鎌山城主 福田遠江守藤原盛雅^{ゆみせん}が弓箭^{がまめ}をとり、利鎌山城から空に向って矢を射放ち、甲の矢は墓目森山に落ち、乙の矢は潮(湖)山に落ちた。そこで神殿を森山に造営し、1505(永正2)年8月に遷宮^{せんぐう}を行い、甲目山八幡宮と崇称す。甲目山の又の名を亀山とも云う。」と登載されています。

しかし、これは勧請年や関係人物等に矛盾があり、他にも諸説があります。

現在の社殿は、1689(元禄2)年に再建されたものと推定されます。

1714(正徳4)年鳥居^{とりい}が建立され、1729(享保14)年神輿^{みこし}が一体奉納され、1734(享保19)年には神輿^{みこし}が3体揃ったとの記録があります。

また、現存する太鼓は、1756(宝暦6)年7月吉日^{ほうりやく}摂津国大坂渡辺村北之町住細工人 長六勝^{せつ}が製作したと記録されています。



(2) 福性院 ふくしょういん

所在 芦田町大字福田2689番地
 山号寺号 法輪山(現在北面山)ほくめんざん福田寺福性院
 宗派 古義真言宗大覚寺派
 本尊 十一面観世音菩薩(御開帳は33年に1回)

開基由来

本堂前の由来書や「西備名区」、「芦品郡志」等を総合すると、第56代清和天皇の859(貞観元)年に、現在の福山市新市町出身で、天皇の信任が厚かった高僧行教和尚、益信僧正により母の出生地であった福田市原に十一面観世音菩薩を本尊として「能面山靈光寺」が建立開基されたとされています。

その後、藤原遠江守光雅が1182(寿永元)年源頼朝より地頭職を賜り、その後1196(建久7)年市原に利鎌山城を築き入城します。城主として姓を「福田」とし、靈光寺を竹之内(現福田公民館の東の山)に移し、福田一族の菩提寺として「転法輪山福田寺」と呼称したので、この地に福田地の地名が残っています。それから約400年の後、1598(慶長3)年天災により寺と寺宝等をこ

とごとく焼失したと伝えられています。

1611(慶長16)年快真和尚が焼失した福田寺跡より南に当たる鴻の巢山のふもとに寺を建て、「福性院」と改称し、現在に至る古刹こさつです。江戸末期に二重塔が建立され、現在準別格本山となっています。

なお、1985(昭和60)年3月兵庫県西部(播磨)、岡山県(備前・備中)広島県東部(備後)の観音菩薩を安置する33ヶ寺で「瀬戸内三十三観音」を創設し、福性院は第33番の札所になっています。



(3) 西教寺 さいきょうじ

所在 芦田町大字福田2372番地
 山号寺号 しみずさん清水山西教寺
 宗派 浄土真宗西本願寺派(山南光照寺末寺)
 本尊 阿弥陀如来(木造佛)
 開基由緒 教春住職によって1672(寛文12)年開基
 本堂 初代の本堂建築年次は不詳。2代目は1705(宝永2)年建立。3代目の現在の本堂は1811(文化8)年正月建立され、6間4面で材質は檜造りけやきです。

山門建立

現在の山門は1769(明和6)年建立で、1985(昭和60)年屋根瓦葺き替え再建修理されました。

鐘 楼

何回となく改築されたが、確かな記録はありません。現在の鐘楼は、1888(明治21)年に再建されたもので、鐘は1737(元文2)年第3世庭柳住職の時大阪にて鑄造。鑄造銘には治工大阪大谷相模大様藤原正次とあります。近隣に聞こえた鐘であったが、幕末に供出されました。

1868(明治元)年第15世最勝住職の時に鑄造されたが、これも太平洋戦争のときに供出、現在の鐘は1947(昭和22)年に新市町高田鑄造(なべや)により鑄造されたものです。

この鐘は、1737(元文2)年に鑄造されたと伝えられています。

かん
喚

しょう
鐘



5 福田の溜池

古い記録によれば、1773(安永2)年に福田村には49箇所の溜池があったと記されています。1980(昭和55)年広島県の委託により福山市が溜池の実態調査を実施した結果、福田には56ヶ所の溜池が確認されており、この中で貯水量や受益面積が特に大きな池が富谷池とみだにいけとセツ大池です。

なお、福山市内には熊野水源地(熊野町 貯水量91.5万トン)、大谷池(加茂町 同89.1万トン)、藤尾ダム(新市町 同87万トン)、服部大池(駅家町 同65万トン)、光林寺池(熊野町)、春日池(春日町)など大きい池がたくさんあり、貯水量では富谷池は市内で16番目になります。

(1) 富谷池

芦田町福田1165番地の1にある富谷池の築造年代については、記録がなく詳細は不明です。この池は、江戸時代、福山藩直轄の御樋方でした。

1773(安永2)年の記録には、池の構造等が詳細に記録されており、又、1800(寛政12)年に根樋の修理や堤の土盛りをした設計書や絵図面等が残っています。

福山市によって1987(昭和62)年度から1997(平成9)年度まで堤体等の大改修工事が行われています。

現在の満水面積は約5ha、貯水量は10万トンで、受益面積は22ha、水利権者は94人です。

なお、宝暦年間(1751~1763)にこの池から龍が昇天したと云う伝説があります。

この龍の昇天について、「西備名区」に次のように書いてあります。

「富谷池は当郡一の大池で、宝暦年中この池より龍が昇天せしという。頃は夏の最中、農夫は田畑に耕耘す。時に、にわか

雲霧起り、大風雨あり。霞霧朦朧として東西をわかつた。農夫走り退くこと能はず。野草を掴み、崖に取付き、倒れ臥たるに、身を空中へ引き上げるが如く、斯の如くなることいっとき計りにして、雨止み 風静まりて晴天となる。銘々、その前に耕せし処を替へて農具は何処へ行けんと尋ねるに、半町或は壱町貳町も外へ散乱し、池水なかば乾きたり。

斯ありしに、此風雨壱里計りの外は、唯曇りて小雨ありしのみ。其事なき処よりみやれば、数丈の白布を空中に曝すが如く、はるかに高く光りて、見えざりしと言ひけらし。」

つまり、真夏のある日、富谷池の周辺だけ一転してにわか曇り、大暴風雨となる。農夫達は走り逃げることも出来ず、野草をつかみ畦畔に取付き倒れ伏しているのに体を空中に引き上げる様であった。その状態が一時半ばかりして風が静まり、晴天になる。農夫達がそれぞれ耕していたところに帰って見ると、今まで使っていた農具は半町、或は1町、2町も遠くへ散乱し、池の水も半分位減っていました。この様な状態であったのに、この雨は4km離れた所では、ただ曇って小雨が降っただけだという。大雨が降ったところ以外から見ると、長さ10メートル余りの白布を空中にさらすように、はるかに高く昇って見えなくなったとの言い伝えがあり、これは今でいうところの竜巻現象が起こったのでしょう。



(2) 七ツ大池

昔から、七ツ大池(芦田町福田2706番地通称この池を「七ツ池」という。)、五座池、相池、寺池下池(モバ池ともいいます。)、寺池上池、西谷奥池及び東谷奥池の七つを総称して「七ツ池」と呼んでいます。現在、西谷奥池・東谷奥池は土砂に埋ってありません。

各池とも築造年代は不明ですが、1773(安永2)年の記録に七ツ池の名が記載されており、1818(文政元)年の記録にも6個の池ごとの名称と面積が記載されています。

この池は谷が小さいため集水面積も狭く、貯水量が少ないにもかかわらず受益面積が広く、毎年のように旱害に悩まされていました。そこで、先人達は常時豊富な水が流れている、山一つ西の、市原川からの分水工事を計画し、1875(明治8)年から1877(明治10)年に掛けて莫大な経費(当時の金で約200円余)と労力を要して水路工事を完成しています。

七ツ大池は、1991(平成3)年度から4年を掛けて福山市によって提体の大改修が行われました。現在の貯水量は0.8万トンで、受益面積は4.2ha、水利権者は28人です。



6 先人達の遺徳

(1) 福田村庄屋 小野新四郎と海内偉帖かいだい いちょう

小野新四郎もとくに基瓘は、1771(明和8)年に生まれ、年若くして福田村の庄屋になりました。また、小野新四郎は、福田村から北西の方角で、道のりが23km余りの距離に位置する芦田郡桑木村(現在神石高原町桑木)の庄屋を兼任していたことがあります。その頃は丁度、浅間山の大噴火をはじめ、天変地異が全国各地で相次ぎ、五穀は稔らず、多くの餓死者が出て悲惨を極めた天明の大飢饉が終息して間もない頃です。

当時桑木村では、田が荒れ果てて、村人の暮らしは大変苦しい状況にあったようです。荒れた桑木村の田畑を回復させるために、小野新四郎は村人を督励して、灌漑用の大きな溜池「平石池」の普請と越えが谷と言う山越えの難所を越えて、日南谷までの延長約2.5キロメートルに及ぶ水路を作る難工事を、1789(寛政元)年から12年の歳月をかけて完成させました。

この溜池と水路が出来てからは、村里の田が潤い、以来桑木の村人たちは安心して暮らせるようになったとされています。桑木村を救った小野新四郎の遺徳を偲んで、村人たちが平石池の傍らに幕末の儒者森田節斎撰文の遺愛碑じゅしゃ せつさいせんぶん いあいひを建てました。

また、1800(寛政12)年に小野新四郎は地元福田にある福山藩直轄の富谷池(福山市立動物園そばの池)堤防のかさあげ(約2メートル)と本樋替え等の大工事を、農民3,900余人を指揮して成し遂げています。

1804(文化元)年に福山藩主阿部正精はこれらの功績を称え、名字帯刀を許しました。

1813(文化10)年7月21日の小野新四郎日誌には、福山藩侯から芦田郡の大庄屋役を仰せ付けられ、三人扶持(5石4斗)ご加増との記載があります。

時が移り老境に入った63歳の小野新四郎は、1832(天保3)年

の秋に地元福田の真言宗福性院発行の往来手形を携えて、北は陸奥(青森)から南は薩摩(鹿児島)に至る58か国を巡る旅に出ています。



小野新四郎の往来手形

各地の詩人や書家・画家など文人墨客ぼっきやくを尋ねて、詩歌・書画の揮毫を乞い、1973人から収集した色紙や短冊・画等を帰国後に整理装丁して、1841(天保12)年にこれを「海内偉帖」と名付けて現代に残すなど、文化の向上発展に貢献した郷土福田の偉人であります。

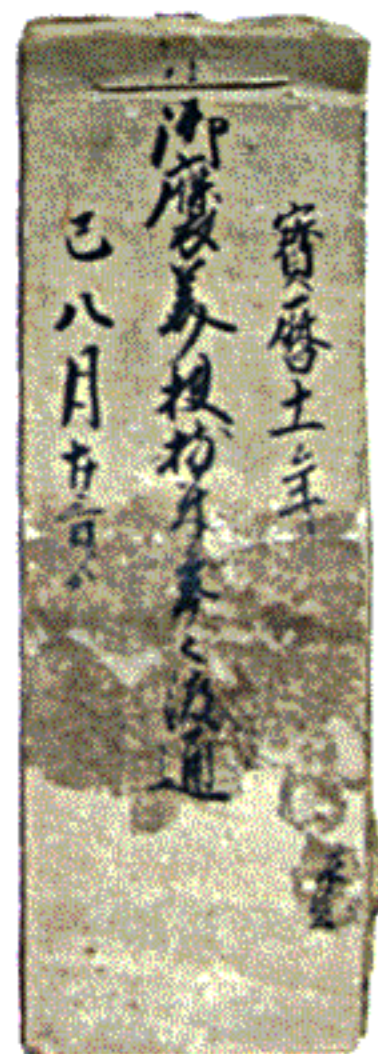
小野新四郎は1845(弘化2)年に没しています。



海内偉帖の一部

(2) 孝女節婦 キク

深安郡道上村(現在の神辺町道上)住右衛門の娘キクは、福田村割石の甚八の妻となりました。老衰で歩行が出来ない83歳の舅甚五郎、80歳の姑キチと病気で仕事が出来ない夫 甚八の3人を介護・看病し、寝食を忘れて家業に励み、1人の子どもも養育しました。この孝節ぶりが時の福山藩主阿部伊豫守正右の耳に入り、キク29歳の1761(宝暦11)年8月孝女・節婦の鑑として表彰し、キクに一生涯1人扶持(米で1年に1石8斗)を下給しました。



御褒美扶持米年々渡通

1761(宝暦11)年からキクが75歳で亡くなる1807(文化4)年12月まで、庄屋から米を受け取った受取日と数量が記録された「御褒美扶持米年々渡通」は、現在も残っております。

(3) 野村蘿軒(医者・儒学者)

野村蘿軒は、1777(安永6)年安芸の國中山村(現在の広島市東区中山)の生まれで、医学を華岡青洲に学び、医を本業とし、福田に住んでいました。また、儒学者でもあり、狂歌にも優れていました。名声を望まず、僻村に隠れ、医業のかたわら読書三昧に過ごしていましたが、1855(安政2)年に死亡、79歳でした。

著書には狂歌集「千代の古道」(1842(天保13)年)があります。

墓碑は、芦田町福田字才町56番地の1(西才町の観魚山、地元の方は野村山ともいう。)にあります。



野村蘿軒のお墓

(4) 野島 績

福田村の出身で、幼名を渋谷音次郎と云い、若くして亀山神社神官野島家に入り、神職のかたわら下山守に塾を開いていましたが、後に菅茶山に学びます。その後、江戸・京都で勉学・研修し、福田に帰り私塾を開いて儒学や砲術の講義をしていましたが、一年後に尾道と四国の讃豫地方を転々として子弟を教育しました。その後、備前岡山藩主の招きに応じて侍講となり、藩士達を教えており、後には大目付格まで出世したと伝えられています。

1874(明治7)年10月76歳で没しております。著書には「砂金集」、「奨学金集」などがあります。

(5) 麦田^{さいざぶろう}宰三郎

1853(嘉永6)年2月5日福田村で生まれました。1868(明治元)年から3年間、福山藩古府鬻において皇漢学を修め、1878(明治11)年から4年間私立講法館で法律学を修めました。1881(明治14)年広島県議会議員に当選し、その後1898(明治31)年まで5期連続当選し、任期中に2回副議長を務めています。1898(明治31)年3月衆議院議員に当選し、その後、1908(明治41)年まで連続当選し、地元のために大きく貢献しました。

(6) 国頭第三郎

福田村に生まれ、1879(明治12)年から1882(明治15)年及び1902(明治35)年から1911(明治44)年まで広島県議会議員を務めました。1903(明治36)年には県議会議長の要職につきました。

また、福相村の第2代村長を、1893(明治26)年から2年間、第6代村長を、1909(明治42)年から1919(大正8)年までの10年間を務め、県と福相村の発展に貢献しました。また、1907(明治40)年10月から1909(明治42)年7月まで鞆町長も務めています。

(7) 福相小学校校医 小野^{きいちろう}己一郎

小野己一郎は、1909(明治42)年に福田市原の地で生まれ、東京慈恵会医科大学において医学を修め、1935(昭和10)年医師になりました。

日華事変及び太平洋戦争で召集を受けて軍医として従軍し、1946(昭和21)年に福田の地に「小野医院」を開業しました。同時に、福相小学校、有磨小学校、芦田中学校の校医に^{いしよく}委嘱され

ています。特に、福相小学校では1994(平成6)年までの49年間校医を務められました。

校医退任時には、生徒が小野校医を尋ねてお別れ会をし、お礼の文集等を渡して長い間の労苦に感謝しています。

また、福田唯一の医療機関として、休日・祭日や夜間をいわず受診や往診に応じ、多くの人々の命を助け、地域住民の健康を支え、地域医療の向上に多大な貢献をしました。

誠実さと慈愛に満ちた人柄で、地域住民の信望が厚く、福田には2代、3代、あるいは、4代にも^{わた}亘ってお世話になった家もあり、正に福田における「赤ひげ先生」でした。2004(平成16)年96歳で死没されました。

小野己一郎医師は、福田が生んだ忘れることのできない多くの人々の命の恩人でした。

13 年 表

西 暦	年 号	事 項
859	貞観元	行教和尚が市原に靈光寺を開基し、十一面観音菩薩安置、福田(フクデン)と呼ぶようになった
1089	寛治 3	才町に斉藤左衛門実遠が居城
1182	寿永元	福田遠江守光雅が源頼朝より地頭職を賜る
1196	建久 7	利鎌山城へ福田遠江守光雅が入城
1336	延元元	利鎌山城6代城主、福田遠江守光秀が足利直義に攻められ落城する
1356	正平11	利鎌山城に岡田遠江守盛次が足利尊氏の命で入城
1505	永正 2	甲目山八幡宮遷宮
1557	弘治 3	利鎌山城8代城主、岡田遠江守盛雅が有地隆信に攻められ自害落城(有地合戦)
1598	慶長 3	福田寺が天災で焼失
1611	慶長16	福田寺を現在の福性院の位置に移し、福性院と改称
1619	元和 5	水野勝成が徳川秀忠より備後10万石を拝領し、神辺城へ入城
1622	元和 8	福山城(久松城)完成、地名を「福山」と改め、福山藩が名実共に成立
1698	元禄11	福山藩主水野氏 ^{かつみね} 5代勝岑が死去、嗣子なく水野家断絶
1699	元禄12	江戸幕府は岡山藩に命じて旧水野領を検地15万石に増加していた
1700	元禄13	出羽国山形15万石松平(奥平)忠雅が福山に転封

1705	宝永 2	清水山西教寺2代日本堂建立(初代本堂建立年不明)
1710	宝永 7	松平忠雅は伊勢国桑名に転封し、代わって下野国宇都宮城主阿部正邦が福山 ^{しもつけ} 10万石の領主となる
1712	正徳 2	助五郎死没
1714	正徳 4	亀山八幡神社鳥居建立
1734	享保19	亀山八幡神社 神輿三体を奉納
1771	明和 8	小野新四郎出生 (~1845)
1800	寛政12	福田村庄屋小野新四郎 富谷池の堤防のかさ上げ工事を完成
1809	文化 6	「福山志料」完成
1811	文化 8	清水山西教寺 3代日本堂建立
1867	慶応 3	大政奉還
1869	明治 2	福山藩版籍奉還
1871	明治 4	福相小学校の前身が下割石に出来る
1881	明治14	麦田宰三郎 広島県県会議員になる(~1898) 1898年から衆議院議員となる(~1908)
1889	明治22	町村制施行により福田村と相方村(現在の新市町相方)が合併し福相村となる 初代村長 小野脩一
1890	明治23	福相小学校が現在の福田公民館の場所に移転
1891	明治24	山陽鉄道(後の山陽本線)の福山駅開通
1898	明治31	芦田郡と品治郡を廃して芦品郡となる
1914	大正 3	福山府中間に両備軽便鉄道(後の福塩線)開通

1916	大正5	市制施行で福山市誕生(広島県で4番目、 全国で73番目 人口32,356人)
1941	昭和16	太平洋戦争 (~1945)
1949	昭和24	相方が福相村より分離し、新市町に編入
1955	昭和30	福相村と有磨村が合併し、芦田町誕生
1956	昭和31	福戸橋完成
1957	昭和32	福相小学校校庭のケヤキの木が枯死
1961	昭和36	日本鋼管福山製鉄所立地決定調印
1964	昭和39	備後工業整備特別地域に指定
1969	昭和44	私立富谷動物園開園
1974	昭和49	芦田町が福山市に合併し、福山市芦田町 大字福田となる 福相小学校校舎が新築され、現在地に移転
1975	昭和50	山陽新幹線全線開通
1977	昭和52	福田の浄水場上水道施設工事開始 総工費16億14000万円
1978	昭和53	福山市立動物園となる
1979	昭和54	福田浄水場完成し、給水開始
1983	昭和58	福田に大字福田の外に大字向陽台ができる
1987	昭和62	長者ヶ原(面積0.24平方キロメートル)が 赤坂町に編入、芦田町(上河原地区を除く) の市外局番が0847から0849に変更
1991	平成3	福相小学校創立120周年記念式典

1992	平成4	福相・有磨・駅家・加茂農協が合併し「福山 北農協」誕生 福山市役所新庁舎完成式 福田地区 市街化調整区域に変更
1993	平成5	山陽自動車道開通・広島空港開港
1996	平成8	福山市北部市民センター開館
2002	平成14	市外局番が0849から084に変更
2003	平成15	芦田支所・あしだ交流館・芦田ふれあいプ ラザの「芦田複合施設」竣工式 福山北農協が福山市農協に合併
2004	平成16	別所地区圃場整備事業完成
2007	平成19	福田地上地区圃場整備事業完成